

ヒト遺体より分離された真菌の分類・同定

徳 留 省 悟 (獨協医科大学医学部法医学教室)

石 井 清 (獨協医科大学医学部生物学教室)

一 杉 正 仁 (獨協医科大学医学部法医学教室)

西 村 和 子 (千葉大学真菌医学研究センター, 系統・化学分野)

矢 口 貴 志 (千葉大学真菌医学研究センター, 系統・化学分野)

研究成果

白骨化したもしくは乾燥が進んだサンプルは、エタノール処理により表面に付着している雑菌を殺菌し、検体内部に侵入した真菌の分離を試みた。水分量の多いサンプルは、表面殺菌を行わず、検体表面（皮膚、筋肉など）を分解していると考えられる真菌の分離を試みた。その結果、前者では、*Eurotium* 属が、後者では、

Mucor, *Fusarium* 属が優先的に分離された。

サンプルの部位によって、分離される真菌に大きな差は見られなかった。同一遺体からのサンプルは、同じ速度で分解が進んでいると考えられる。

今後は、検体数を増やし遺体の分解段階と出現する真菌の相関から、遺体が遺棄されてからの時間経過の推測に繋げたい。